

【固形燃料化施設の導入にかかる事業場所の選定資料】

< 目次構成 >

1. 固形燃料化施設の事業場所について

- ◆ 事業場所の選定、水資源再生センターの概要について

2. 事業場所の選定時における課題の整理

- ◆ 事業場所の選定時において各水資源再生センターで想定される課題を考慮の上、最適と考えられる事業場所を選定する。

1. 固形燃料化施設の事業場所について

(1) 事業場所の選定について

固形燃料化施設の事業場所は、市内5箇所の水資源再生センターを対象として、各センターの位置や既存施設および将来計画を踏まえた配置上の課題等を整理した上で、最適と考えられる事業場所を選定する。

(2) 水資源再生センターの概要

本市の水資源再生センターは、昭和44年に新産業都市背後地の東部処理区において原川水資源再生センター（旧原川終末処理場）の供用が開始され、平成4年度に供用開始した松岡水資源再生センター（旧松岡終末処理場）を含め、現在5センターの供用により市内の汚水を処理している。

また、各センターで発生した下水汚泥（脱水汚泥）は、場外搬出後、県内の民間企業に譲渡しセメント原料として利用されている。

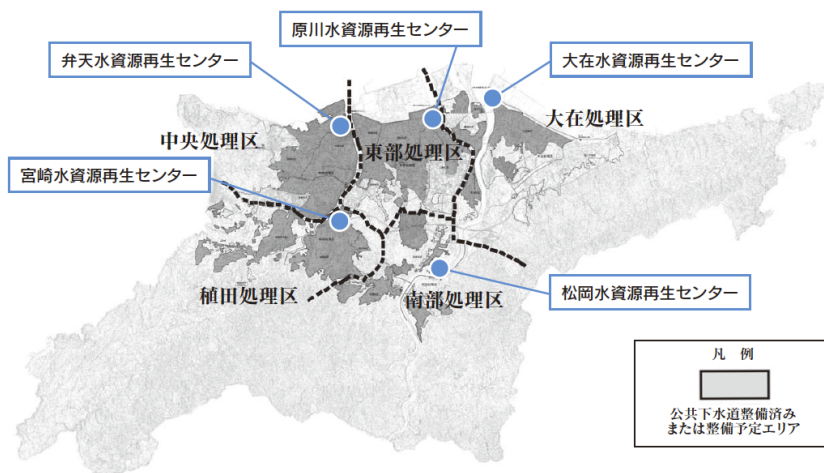


図 1-2 各水資源再生センターの位置

表 1-2 各水資源再生センター概要

弁天水資源再生センター	宮崎水資源再生センター	原川水資源再生センター	大在水資源再生センター	松岡水資源再生センター																																																																																																																																																																					
中央処理区	植田処理区	東部処理区	大在処理区	南部処理区																																																																																																																																																																					
<p>市内5つの水資源再生センターの中で、最も大きい処理能力を有し、本市の中心部である大分駅前を含む大分川左岸地域の汚水処理を行っている。また、処理水の一部は貴重な淡水資源として、府内城址公園の堀水の浄化や市役所のトイレ用水、緑地散水・工事現場雑用水等に再生利用している。</p>	<p>本市の南西部に位置し、商業サービス系地域の拠点として近年開発めざましい植田新都心や多数の大規模な住宅団地の汚水処理を行っている。また、当センターは、本市の水道水源である大分川の水質保全にも、重要な役割を果たしている。</p>	<p>本市の中心部より、東方の大分川と乙津川に挟まれた地域の汚水処理を行っている。狭い敷地を有効利用して汚水処理ができるように、日本では数少ない酸素活性汚泥法による処理を行っている。</p>	<p>本市中心部より、最も東方に位置し、大野川と乙津川が南北に貫流しており、新産都二期計画の背後地区、鶴崎、高田、大在および坂ノ市地区で構成される地域の汚水処理を行っている。</p>	<p>本市中心部の南部内陸地域を汚水処理している。放流先の大野川は、大分・宮崎・熊本三県にかかる一級河川で、下流では本川より導水する遊水プールもあり、年間数々のイベントが開催されている。当センターも、この大野川の水質保全に一役買っている。</p>																																																																																																																																																																					
<table border="1"> <tr><td>所在地</td><td colspan="2">弁天四丁目1番1号</td></tr> <tr><td>敷地面積</td><td colspan="2">61,727m²</td></tr> <tr><td>排除方式</td><td colspan="2">分流式</td></tr> <tr><td>供用開始年月日</td><td colspan="2">1977(S52)年10月1日</td></tr> <tr><td>処理方式</td><td colspan="2">標準活性汚泥法</td></tr> <tr><td>放流先</td><td colspan="2">大分川</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理人口(人)</td><td>全体</td><td>134,000</td></tr> <tr><td>整備</td><td>97,368</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理能力(m³/日)</td><td>全体</td><td>76,624</td></tr> <tr><td>整備</td><td>57,468</td></tr> <tr><td rowspan="2">(日最大汚水量)</td><td>全体</td><td>2,315</td></tr> <tr><td>整備</td><td>1,460</td></tr> </table> <p>(全体:全体計画)(整備:平成31年3月31日現在) ※処理能力は設計HRT=7.5の時</p>	所在地	弁天四丁目1番1号		敷地面積	61,727m ²		排除方式	分流式		供用開始年月日	1977(S52)年10月1日		処理方式	標準活性汚泥法		放流先	大分川		処理人口(人)	全体	134,000	整備	97,368	処理能力(m ³ /日)	全体	76,624	整備	57,468	(日最大汚水量)	全体	2,315	整備	1,460	<table border="1"> <tr><td>所在地</td><td colspan="2">大字宮崎35番地</td></tr> <tr><td>敷地面積</td><td colspan="2">34,810m²</td></tr> <tr><td>排除方式</td><td colspan="2">分流式</td></tr> <tr><td>供用開始年月日</td><td colspan="2">1973(S48)年12月1日</td></tr> <tr><td>処理方式</td><td colspan="2">標準活性汚泥法</td></tr> <tr><td>放流先</td><td colspan="2">大分川</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理人口(人)</td><td>全体</td><td>71,000</td></tr> <tr><td>整備</td><td>65,550</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理能力(m³/日)</td><td>全体</td><td>45,120</td></tr> <tr><td>整備</td><td>45,120</td></tr> <tr><td rowspan="2">(日最大汚水量)</td><td>全体</td><td>1,799</td></tr> <tr><td>整備</td><td>1,423</td></tr> </table> <p>(全体:全体計画)(整備:平成31年3月31日現在) ※処理能力は設計HRT=8.0の時</p>	所在地	大字宮崎35番地		敷地面積	34,810m ²		排除方式	分流式		供用開始年月日	1973(S48)年12月1日		処理方式	標準活性汚泥法		放流先	大分川		処理人口(人)	全体	71,000	整備	65,550	処理能力(m ³ /日)	全体	45,120	整備	45,120	(日最大汚水量)	全体	1,799	整備	1,423	<table border="1"> <tr><td>所在地</td><td colspan="2">向原沖3丁目1番31号</td></tr> <tr><td>敷地面積</td><td colspan="2">34,092m²</td></tr> <tr><td>排除方式</td><td colspan="2">分流式</td></tr> <tr><td>供用開始年月日</td><td colspan="2">1985(S60)年4月1日</td></tr> <tr><td>処理方式</td><td colspan="2">酸素活性汚泥法</td></tr> <tr><td>放流先</td><td colspan="2">原川</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理人口(人)</td><td>全体</td><td>145,000</td></tr> <tr><td>整備</td><td>88,642</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理能力(m³/日)</td><td>全体</td><td>74,960</td></tr> <tr><td>整備</td><td>46,964</td></tr> <tr><td rowspan="2">(日最大汚水量)</td><td>全体</td><td>2,715</td></tr> <tr><td>整備</td><td>1,510</td></tr> </table> <p>(全体:全体計画)(整備:平成31年3月31日現在) ※処理能力は設計HRT=2.5の時</p>	所在地	向原沖3丁目1番31号		敷地面積	34,092m ²		排除方式	分流式		供用開始年月日	1985(S60)年4月1日		処理方式	酸素活性汚泥法		放流先	原川		処理人口(人)	全体	145,000	整備	88,642	処理能力(m ³ /日)	全体	74,960	整備	46,964	(日最大汚水量)	全体	2,715	整備	1,510	<table border="1"> <tr><td>所在地</td><td colspan="2">大字志村2500番地の1</td></tr> <tr><td>敷地面積</td><td colspan="2">52,498m²</td></tr> <tr><td>排除方式</td><td colspan="2">分流式</td></tr> <tr><td>供用開始年月日</td><td colspan="2">1990(H2)年4月1日</td></tr> <tr><td>処理方式</td><td colspan="2">標準活性汚泥法</td></tr> <tr><td>放流先</td><td colspan="2">大野川</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理人口(人)</td><td>全体</td><td>68,000</td></tr> <tr><td>整備</td><td>28,801</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理能力(m³/日)</td><td>全体</td><td>37,500</td></tr> <tr><td>整備</td><td>15,258</td></tr> <tr><td rowspan="2">(日最大汚水量)</td><td>全体</td><td>2,818</td></tr> <tr><td>整備</td><td>756</td></tr> </table> <p>(全体:全体計画)(整備:平成31年3月31日現在) ※処理能力は設計HRT=8.0の時</p>	所在地	大字志村2500番地の1		敷地面積	52,498m ²		排除方式	分流式		供用開始年月日	1990(H2)年4月1日		処理方式	標準活性汚泥法		放流先	大野川		処理人口(人)	全体	68,000	整備	28,801	処理能力(m ³ /日)	全体	37,500	整備	15,258	(日最大汚水量)	全体	2,818	整備	756	<table border="1"> <tr><td>所在地</td><td colspan="2">大字松岡1878番地の1</td></tr> <tr><td>敷地面積</td><td colspan="2">18,402m²</td></tr> <tr><td>排除方式</td><td colspan="2">分流式</td></tr> <tr><td>供用開始年月日</td><td colspan="2">1992(H4)年4月1日</td></tr> <tr><td>処理方式</td><td colspan="2">標準活性汚泥法</td></tr> <tr><td>放流先</td><td colspan="2">大野川</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理人口(人)</td><td>全体</td><td>29,000</td></tr> <tr><td>整備</td><td>22,788</td></tr> <tr><td rowspan="2">処理能力(m³/日)</td><td>全体</td><td>13,938</td></tr> <tr><td>整備</td><td>13,938</td></tr> <tr><td rowspan="2">(日最大汚水量)</td><td>全体</td><td>1,004</td></tr> <tr><td>整備</td><td>521</td></tr> </table> <p>(全体:全体計画)(整備:平成31年3月31日現在) ※処理能力は設計HRT=8.0の時</p>	所在地	大字松岡1878番地の1		敷地面積	18,402m ²		排除方式	分流式		供用開始年月日	1992(H4)年4月1日		処理方式	標準活性汚泥法		放流先	大野川		処理人口(人)	全体	29,000	整備	22,788	処理能力(m ³ /日)	全体	13,938	整備	13,938	(日最大汚水量)	全体	1,004	整備	521
所在地	弁天四丁目1番1号																																																																																																																																																																								
敷地面積	61,727m ²																																																																																																																																																																								
排除方式	分流式																																																																																																																																																																								
供用開始年月日	1977(S52)年10月1日																																																																																																																																																																								
処理方式	標準活性汚泥法																																																																																																																																																																								
放流先	大分川																																																																																																																																																																								
処理人口(人)	全体	134,000																																																																																																																																																																							
	整備	97,368																																																																																																																																																																							
処理能力(m ³ /日)	全体	76,624																																																																																																																																																																							
	整備	57,468																																																																																																																																																																							
(日最大汚水量)	全体	2,315																																																																																																																																																																							
	整備	1,460																																																																																																																																																																							
所在地	大字宮崎35番地																																																																																																																																																																								
敷地面積	34,810m ²																																																																																																																																																																								
排除方式	分流式																																																																																																																																																																								
供用開始年月日	1973(S48)年12月1日																																																																																																																																																																								
処理方式	標準活性汚泥法																																																																																																																																																																								
放流先	大分川																																																																																																																																																																								
処理人口(人)	全体	71,000																																																																																																																																																																							
	整備	65,550																																																																																																																																																																							
処理能力(m ³ /日)	全体	45,120																																																																																																																																																																							
	整備	45,120																																																																																																																																																																							
(日最大汚水量)	全体	1,799																																																																																																																																																																							
	整備	1,423																																																																																																																																																																							
所在地	向原沖3丁目1番31号																																																																																																																																																																								
敷地面積	34,092m ²																																																																																																																																																																								
排除方式	分流式																																																																																																																																																																								
供用開始年月日	1985(S60)年4月1日																																																																																																																																																																								
処理方式	酸素活性汚泥法																																																																																																																																																																								
放流先	原川																																																																																																																																																																								
処理人口(人)	全体	145,000																																																																																																																																																																							
	整備	88,642																																																																																																																																																																							
処理能力(m ³ /日)	全体	74,960																																																																																																																																																																							
	整備	46,964																																																																																																																																																																							
(日最大汚水量)	全体	2,715																																																																																																																																																																							
	整備	1,510																																																																																																																																																																							
所在地	大字志村2500番地の1																																																																																																																																																																								
敷地面積	52,498m ²																																																																																																																																																																								
排除方式	分流式																																																																																																																																																																								
供用開始年月日	1990(H2)年4月1日																																																																																																																																																																								
処理方式	標準活性汚泥法																																																																																																																																																																								
放流先	大野川																																																																																																																																																																								
処理人口(人)	全体	68,000																																																																																																																																																																							
	整備	28,801																																																																																																																																																																							
処理能力(m ³ /日)	全体	37,500																																																																																																																																																																							
	整備	15,258																																																																																																																																																																							
(日最大汚水量)	全体	2,818																																																																																																																																																																							
	整備	756																																																																																																																																																																							
所在地	大字松岡1878番地の1																																																																																																																																																																								
敷地面積	18,402m ²																																																																																																																																																																								
排除方式	分流式																																																																																																																																																																								
供用開始年月日	1992(H4)年4月1日																																																																																																																																																																								
処理方式	標準活性汚泥法																																																																																																																																																																								
放流先	大野川																																																																																																																																																																								
処理人口(人)	全体	29,000																																																																																																																																																																							
	整備	22,788																																																																																																																																																																							
処理能力(m ³ /日)	全体	13,938																																																																																																																																																																							
	整備	13,938																																																																																																																																																																							
(日最大汚水量)	全体	1,004																																																																																																																																																																							
	整備	521																																																																																																																																																																							

2. 事業場所の選定時における課題の整理

(1) 配置上の課題について

事業場所選定にあたり、固形燃料化施設の配置に係る各センターの課題を整理する。整理する項目を表 2-1 に示す。

表 2-1 課題整理項目

重要度	項目	内容
◎	① 周辺環境	・センターの周辺に宅地や商業施設が密集している場合、施設や汚泥搬出入時に発生する、臭気・騒音・振動等の発生に十分配慮した対策を講じなければならない。
△	② 事業場所となるセンターと他センターとの位置関係および脱水汚泥発生量	・他センターとの位置関係が離れている、または脱水汚泥発生量が少ないセンターを事業場所とした場合、脱水汚泥の運搬コストが高価となる ^(※) 。 (※事業場所以外の他 4 センターから搬入される脱水汚泥量が多くなるため)
△	③ 浸水想定（津波，河川氾濫）	・津波の襲来または河川の氾濫による浸水想定を調査し、浸水の可能性がある場合はその対策を講じなければならない。
◎	④ 施設配置（既存施設，将来計画施設）	・既存施設および将来計画施設の配置を踏まえた用地スペースの有無を確認し、設置の可否について判断する。

(2) 課題の整理

① 周辺環境

各センターの周辺環境に関する課題について、P.12 表 3-1 事業場所選定表に整理する。

【弁天，宮崎，原川】

- ・宅地や商業施設が隣接しているセンターは、施設や汚泥搬出入時に発生する、臭気・騒音・振動等に十分配慮が必要である。

【大在，松岡】

- ・近接した宅地は比較的少ないが、汚泥搬出入時に発生する、臭気・振動等に配慮が必要である。

② 事業場所となるセンターと他センターとの位置関係および脱水汚泥発生量

全 5 センターの位置関係および脱水汚泥発生量に関する課題について、P. 12 表 3-1 事業場所選定表に整理する。また、補足資料を表 2-2 に示す。

表 2-2 位置関係および処理能力に関する課題

事業場所となる施設名称	位置関係および処理能力
弁天水資源再生センター	<ul style="list-style-type: none"> ・別府湾に面している原川と大在との位置関係は良好であるが、宮崎と松岡とは比較的距離が離れている。 ・他 4 センターからの汚泥運搬量：18,871 t /年×運搬単価 2,000 円/ t = →<u>37.7 百万円/年</u>
宮崎水資源再生センター	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地から外れた箇所に位置しており、他センターと距離が離れている。 ・他 4 センターからの汚泥運搬量：23,287 t /年×運搬単価 2,000 円/ t = →<u>46.6 百万円/年</u> ※運搬コストが再安価な弁天と比較し、8.8 百万円/年多くなる。
原川水資源再生センター	<ul style="list-style-type: none"> ・別府湾に面している弁天と大在との位置関係は良好であるが、宮崎と松岡とは比較的距離が離れている。 ・他 4 センターからの汚泥運搬量：21,170 t /年×運搬単価 2,000 円/ t = →<u>42.3 百万円/年</u> ※運搬コストが再安価な弁天と比較し、4.6 百万円/年多くなる。
大在水資源再生センター	<ul style="list-style-type: none"> ・別府湾に面している原川と弁天との位置関係は良好であるが、宮崎と松岡とは比較的距離が離れている。 ・他 4 センターからの汚泥運搬量：26,572 t /年×運搬単価 2,000 円/ t = →<u>53.1 百万円/年</u> ※運搬コストが再安価な弁天と比較し、15.4 百万円/年多くなる。
松岡水資源再生センター	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地から外れた箇所に位置しており、他センターと距離が離れている。 ・他 4 センターからの汚泥運搬量：27,047 t /年×運搬単価 2,000 円/ t = →<u>54.1 百万円/年</u> ※運搬コストが再安価な弁天と比較し、16.4 百万円/年多くなる。

③ 浸水想定（津波，河川氾濫）

各センターにおいて想定されている津波または河川の氾濫による浸水想定について、P. 12 表 3-1 事業場所選定表に整理する。

【弁天，原川，大在】

- ・津波による浸水が想定されているため、固形燃料化施設への浸水対策が必要である。

【宮崎，松岡】

- ・河川の氾濫による浸水が想定されているため、固形燃料化施設への浸水対策が必要である。

※津波浸水深：耐津波対策基本計画書（平成 28 年 3 月（策定））

※河川氾濫浸水深：大分市洪水ハザードマップ（令和元年 7 月（最終改定））

④ 施設配置（既存施設、将来計画施設）

本市下水道事業計画における処理場一般平面図より、各センターの既存施設と将来計画施設を考慮し、固形燃料化施設の配置検討を行う。

固形燃料化施設の用地については、以下のように設定する。

- ◆ 施設規模：70 t / 日（事業計画より仮設定(本業務において再検討)）
- ◆ 必要用地：63m×23m（他都市事例より設定(施設のみ, 場内道路や駐車場は含まず)）
- ◆ 用地取得：センターの敷地拡張や5センター以外の新たな用地取得は行わない。

（調査、法的手続き、用地取得に相当の日数と新たな費用を要するため、目標としている供用開始時期を考慮し、既に確保済みである用地(施設)内で検討する。）

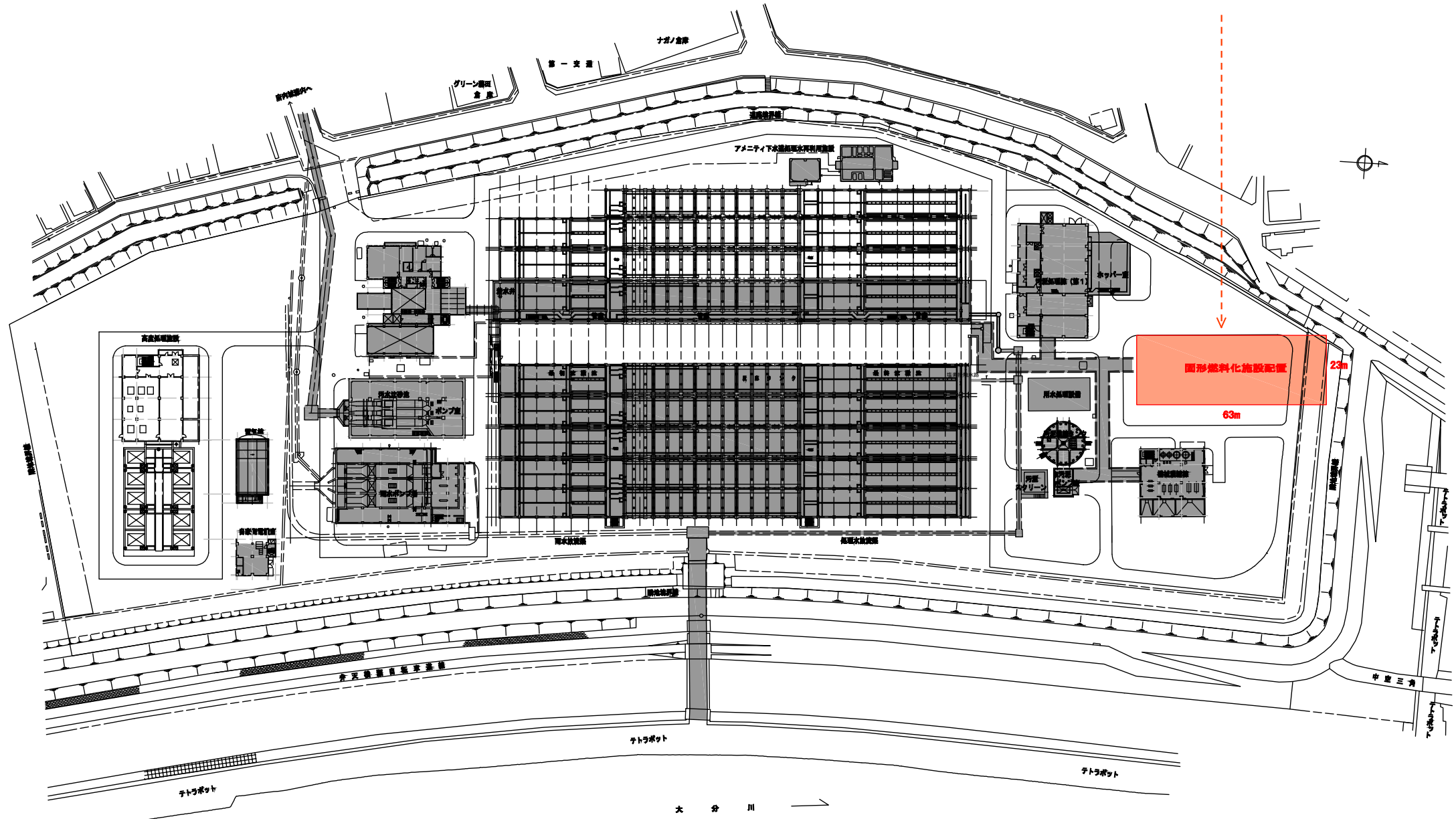
各センターの施設配置について、P.12 表 3-1 事業場所選定表に整理する。また、補足資料を表 2-3 に示す。

表 2-3 施設配置

事業場所となる施設名称	施設配置
弁天水資源再生センター	<p>配置可能用地なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地境界に近接 ・配置スペースが不足（敷地の拡張には、近隣の宅地を取得する必要がある）
宮崎水資源再生センター	<p>配置可能用地なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地境界に近接 ・配置スペースがやや不足（既存施設との離隔の確保が困難, 宅地や商業施設に隣接しており、さらに周囲を市道や河川に囲まれており、敷地の拡張は困難）
原川水資源再生センター	<p>配置可能用地なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地境界に近接 ・配置スペースが不足（処理場建設時に反対運動が起こった経緯があり、その際に住民からの要望により設置した緩衝緑地に重複するため、地元住民との合意は困難）
大在水資源再生センター	<p>配置可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置スペースは十分にある
松岡水資源再生センター	<p>配置可能用地なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地境界に近接 ・配置スペースが不足（敷地の拡張には、近隣の農地を取得する必要がある）

弃天水資源再生センター 一般平面図

- ・敷地境界に近接する
- ・配置スペースが不足する（メンテナンススペース、汚泥搬出入車両の動線等が確保できない）

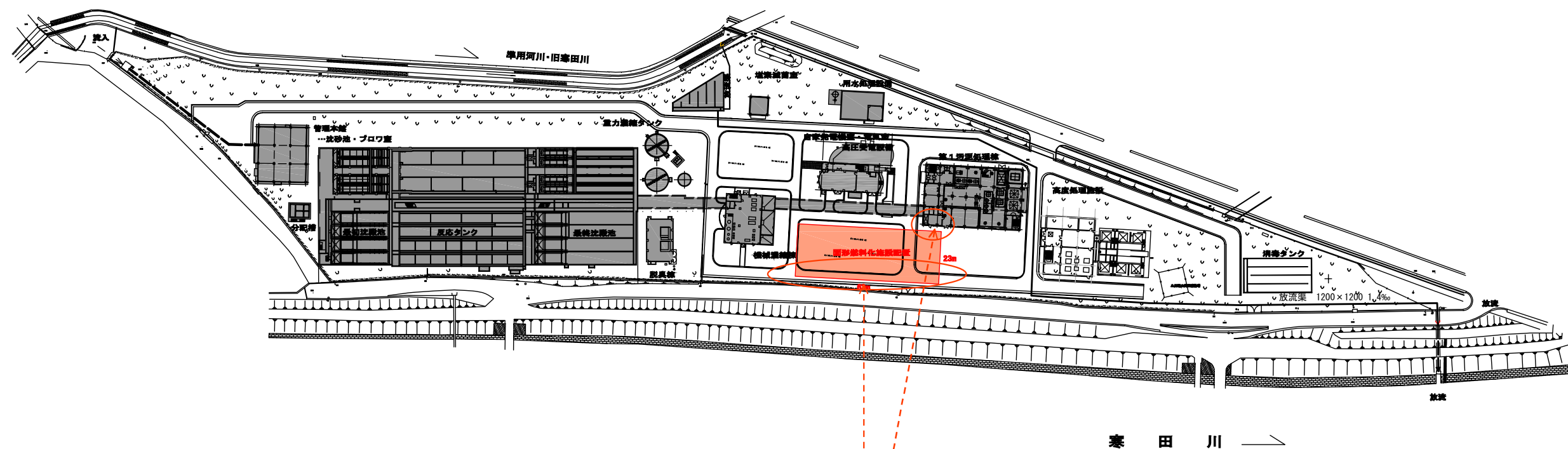


凡 例	
	既存施設
	全体計画施設(未設)

大分市公共下水道事業		1
弃天水資源再生センター 一般平面図		5
大分市下水道部		縮尺 1:800
平成30年度		
承認	設計	



宮崎水資源再生センター 一般平面図

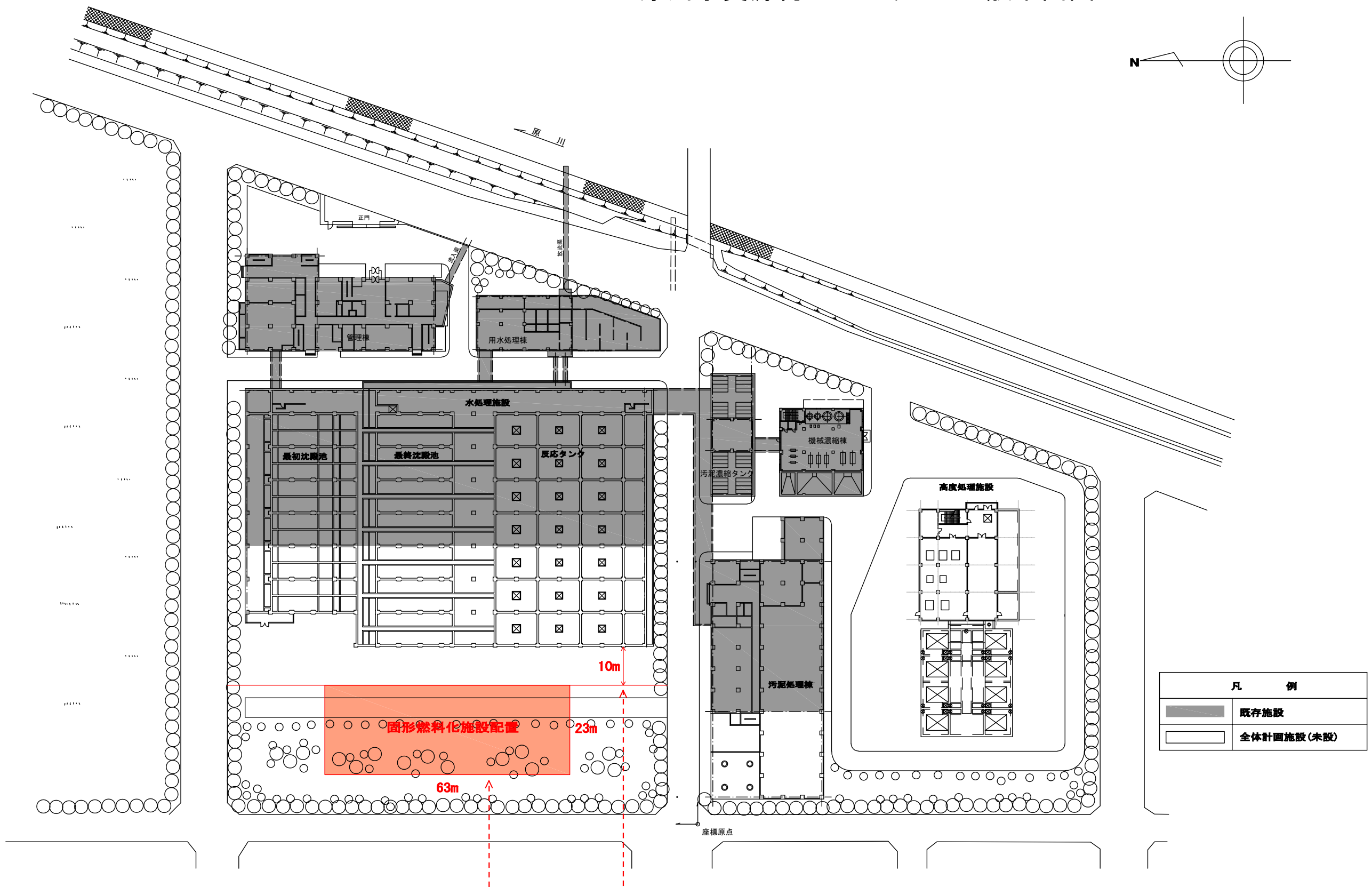
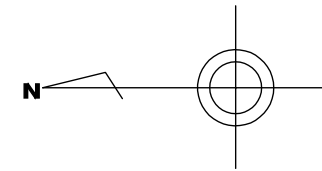


- ・ 汚泥処理棟に近接する(十分な離隔を確保できない)
- ・ 敷地境界に近接する(十分な離隔を確保できない)

凡 例	
	既存施設
	全体計画施設(未設)

大分市公共下水道事業		2
宮崎水資源再生センター 一般平面図		5
大分市下水道部		縮尺 1:1000
承認	設計	平成30年度

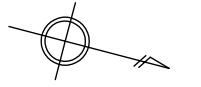
原川水資源再生センター 一般平面図



・水処理増設施工用地として一定の離隔を確保（仮に10mと設定）
 ・配置スペースが不足する（緩衝緑地に重複するため、地元住民との合意は困難である）

大分市公共下水道事業		3
原川水資源再生センター 一般平面図		5
大分市下水道部		縮尺 1:500
承認	設計	平成30年度

大在水資源再生センター 一般平面図



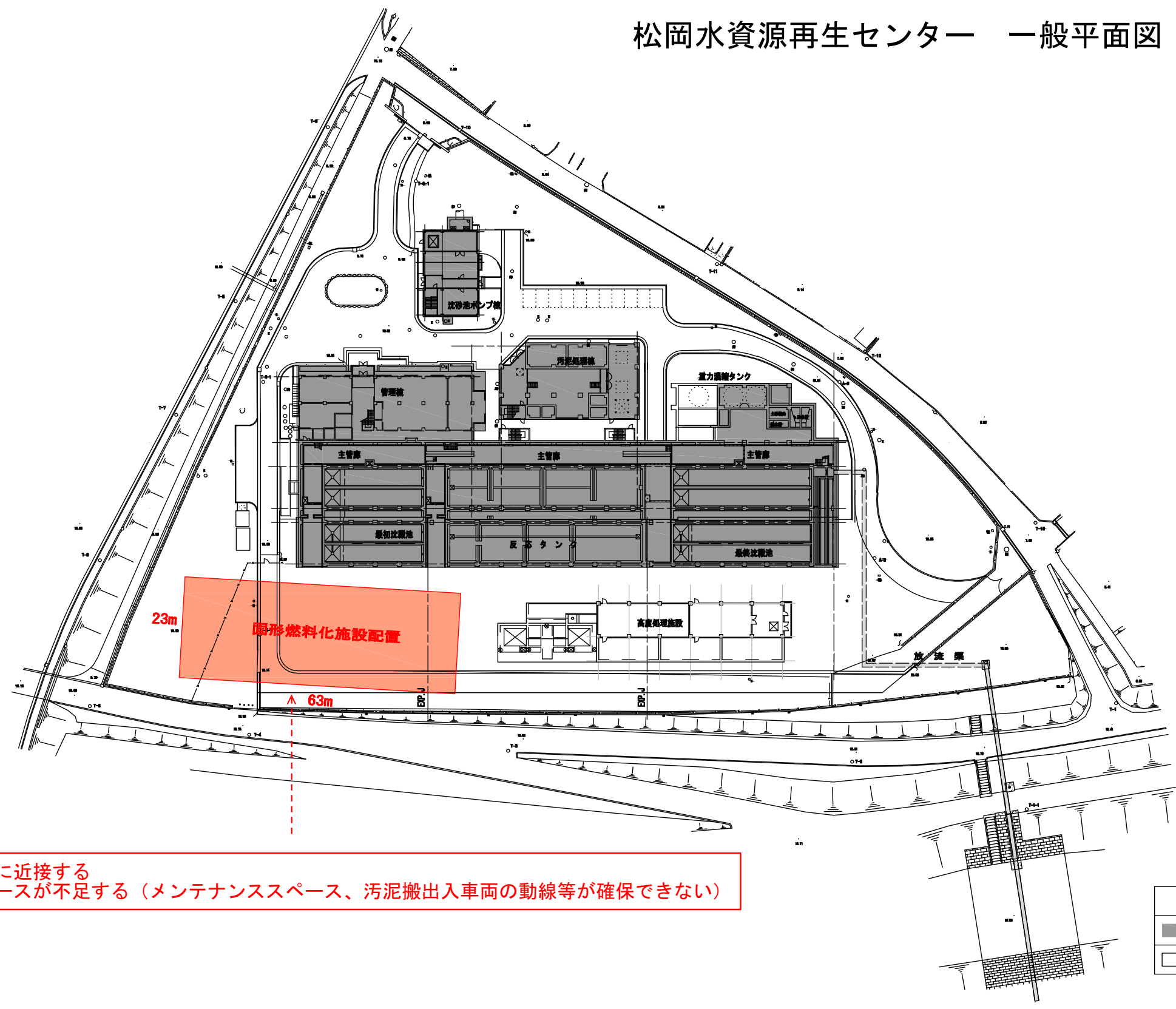
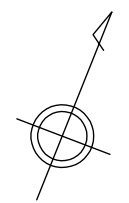
・配置上問題無し

面形燃料化施設配置
23m
63m

凡 例	
	既存施設
	全体計画施設(未設)

大分市公共下水道事業		4	5
大在水資源再生センター 一般平面図		縮尺 1:600	
大分市下水道部		平成30年度	
承認	設計		

松岡水資源再生センター 一般平面図



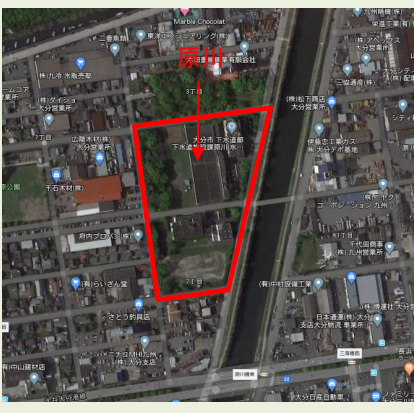







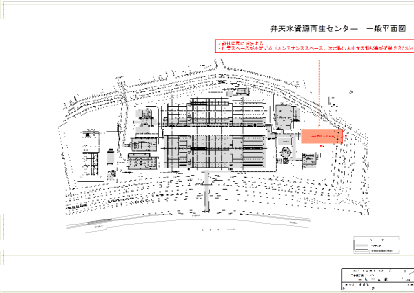
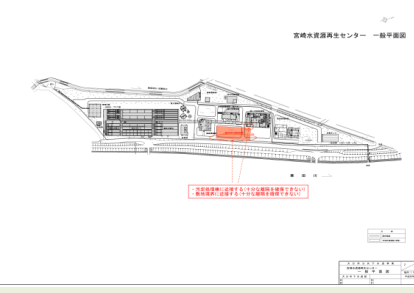
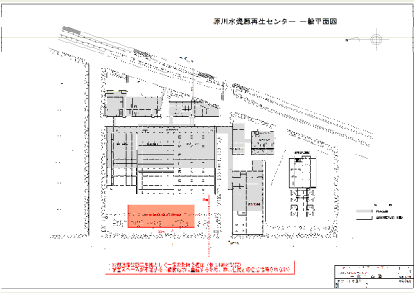

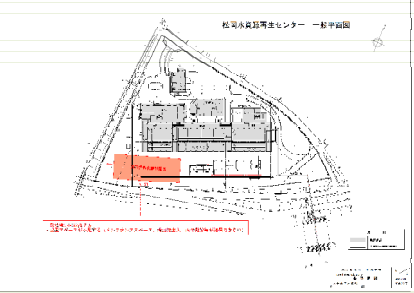


・敷地境界に近接する
 ・配置スペースが不足する（メンテナンススペース、汚泥搬出入車両の動線等が確保できない）

凡 例	
	既存施設
	全体計画施設(未設)

大分市公共下水道事業		5
松岡水資源再生センター 一般平面図		5
大分市下水道部		縮尺 1:500 平成30年度
承認	設計	

表 3-1 事業場所選定表

課題の整理		弁天水資源再生センター	宮崎水資源再生センター	原川水資源再生センター	大在水資源再生センター	松岡水資源再生センター
①周辺環境 【重要度:◎】						
		・工業地域 ・宅地が隣接しており、施設や汚泥搬出入時に発生する、臭気・騒音・振動等に十分配慮が必要	・準工業地域 ・宅地や商業施設が隣接しており、施設や汚泥搬出入時に発生する、臭気・騒音・振動等に十分配慮が必要	・準工業地域 ・宅地が隣接しており、施設や汚泥搬出入時に発生する、臭気・騒音・振動等に十分配慮が必要	・準工業地域 ・近接した宅地は比較的少ないが、汚泥搬出入時に発生する、臭気・振動等に配慮が必要	・用途地域外 ・近接した宅地は比較的少ないが、汚泥搬出入時に発生する、臭気・振動等に配慮が必要
評価		△	△	△	○	○
②他センターとの位置関係および脱水汚泥発生量 【重要度:△】	位置関係					
	脱水汚泥発生量 (令和元年度実績) 5センター合計:80.1t/日	10,366t/年 (28.4t/日)	5,950t/年 (16.3t/日)	8,067t/年 (22.1t/日)	2,665t/年 (7.3t/日)	2,190t/年 (6.0t/日)
	他4センターからの搬入量	18,871t/年 (51.7t/日)	23,287t/年 (63.8t/日)	21,170t/年 (58.0t/日)	26,572t/年 (72.8t/日)	27,047t/年 (74.1t/日)
	他4センターからの脱水汚泥運搬費	18,871t/年 × 2,000円/t = 37.7百万円/年	23,287t/年 × 2,000円/t = 46.6百万円/年	21,170t/年 × 2,000円/t = 42.3百万円/年	26,572t/年 × 2,000円/t = 53.1百万円/年	27,047t/年 × 2,000円/t = 54.1百万円/年
評価 ※5センター間の価格差は小さい		○ (比較的安い)	△ (比較的高い)	○ (比較的安い)	△ (比較的高い)	△ (比較的高い)
③浸水想定 【重要度:△】	津波	最大4.0m	津波想定なし	最大4.1m	最大4.5m	津波想定なし
	河川氾濫	0.5~3.0m	3.0~5.0m ※河川氾濫による浸水深が深い	0.5~3.0m	0.5~3.0m	3.0~5.0m ※河川氾濫による浸水深が深い
評価		△ (津波に対する浸水対策が必要)	△ (河川氾濫に対する浸水対策が必要)	△ (津波に対する浸水対策が必要)	△ (津波に対する浸水対策が必要)	△ (河川氾濫に対する浸水対策が必要)
④施設配置 【重要度:◎】						
		配置可能用地なし ・敷地境界に近接 ・配置スペースが不足 (敷地の拡張には、近隣の宅地を取得する必要がある)	配置可能用地なし ・敷地境界に近接 ・配置スペースがやや不足 (既存施設との離隔の確保が困難、宅地や商業施設に隣接しており、さらに周囲を市道や河川に囲まれており、敷地の拡張は困難)	配置可能用地なし ・敷地境界に近接 ・配置スペースが不足 (処理場建設時に反対運動が起こった経緯があり、その際に住民からの要望により設置した緩衝緑地に重複するため、地元住民との合意は困難)	配置可能 ・配置スペースは十分にある	配置可能用地なし ・敷地境界に近接 ・配置スペースが不足 (敷地の拡張には、近隣の農地を取得する必要がある)
評価		△ (近隣の宅地を取得する必要がある)	× (配置可能用地なし)	× (配置可能用地なし)	◎ (配置可能)	○ (近隣の農地を取得する必要がある)